

## 海外食料需給レポート (Monthly Report) のポイント 国際的な穀物等の需給の見通し (2009/10年度)

穀物全体、油糧種子ともに生産量は消費量を上回ると見込まれるものの、とうもろこし、大豆の生育期に移行した南米の天候等に注視が必要。

穀物全体の期末在庫率は 21.4%と前年度(20.8%)並みで、FAOの安全在庫水準(17~18%)を上回る見込み。

### ○主な品目別の需給

#### 小麦

世界的に豊作となった前年度より生産量は減少するものの、消費量を上回る生産量が確保され、需給は緩和すると見込まれる。

【生産量：677.4百万トン(▲0.8%)、消費量：645.6百万トン(+0.9%)】

- ◇北半球の2010/11年度の冬小麦は、スノーカバーで概ね良好な状態で休眠中
- ◇米国をはじめ世界の期末在庫量は大幅に積み増し

#### とうもろこし

前年度より生産量はわずかに増加し、史上最高となるも、消費量を下回ることから、需給は引き締まると見込まれる。

【生産量：797.8百万トン(+0.8%)、消費量：809.7百万トン(+4.4%)】

- ◇米国で史上最高の豊作見通しであるものの、雪中の未収穫分も含まれ、再調査のうえで3月に生産見通し公表
- ◇米国でイタール原料用及び飼料用需要の増加
- ◇ブラジル及びアルゼンチンでは降雨で土壌水分が恵まれ、生育に適した状態

#### 米

前年度より生産量は減少し、消費量を下回ることから、需給はやや引き締まると見込まれる。

【生産量：436.3百万トン(▲2.5%)、消費量：437.1百万トン(+0.5%)】

- ◇インドでモンスーン期の干ばつ、その後の洪水で、生産量が減少
- ◇フィリピンで台風による冠水等で生産量が減少し、昨年末に輸入入札を実施
- ◇インドネシアで収量の多い品種の作付け増加で、生産量が増加

#### 大豆

面積の増加から生産量は前年度を上回り、消費量を上回る生産量が確保されると見込まれる。

【生産量：255.0百万トン(+20.9%)、消費量：235.1百万トン(+5.6%)】

- ◇米国、ブラジル及びアルゼンチンで史上最高の豊作見通し
- ◇中国の大豆(搾油用)需要の増加から、輸入が史上最高となる見通し
- ◇ブラジル及びアルゼンチンでは降雨で土壌水分に恵まれ、生育に適した状態であるが、多雨による大豆さび病のリスクが懸念される